

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-154	15-036	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
A prospective study of trends in consumption of cigarettes and alcohol among adults in a rural Ugandan population cohort, 1994-2011. 1994年から2011年のウガンダ農村地域住民での喫煙とアルコール摂取量の前向き調査		
執筆者		
Asiki G, Baisley K, Kamali A, Kaleebu P, Seeley J, Newton R.		
掲載誌		
Trop Med Int Health. 2015 Apr;20(4):527-36. doi: 10.1111/tmi.12451.		
キーワード		PMID
喫煙、アルコール、一般住民コホート、農村地域、ウガンダ		25496206
要 旨		
目的： 1994年から2011年におけるウガンダの農村地域住民における喫煙とアルコール消費に関する傾向を把握する。		
方法： 長期間にわたるコホート研究から得られた自記式調査データを使用した。1989年から1999年の対象は近接15区域の1万人の人口であり、1999年からは10区域が追加となり、対象人口は倍増となった。全人口の半分以上をなす13歳以上の成人に関する喫煙に関するデータは、1994/1995・2008/2009・2010/2011の3期間、アルコールに関しては1996/1997・2000/2001・2009/2010・2010/2011の4期間に得られた。		
結果： 男性の喫煙割合は上記3期間ではそれぞれ17%、14%、16%であり、女性はそれぞれ1.5%、1%、2%であった。2010/2011のデータでは全対象のうち29歳未満で1.5%、50歳以上では有意に18%への増加(P<0.001)を認めた。社会経済的地位を3分割した場合の喫煙率では最下層で14.8%、最上層では3.7%となり有意差が見られた。アルコール摂取率は1996/1997では39%、2000/2001で35%となり、2010/2011では28%であった。2010/2011のデータでは男性は女性に比して、それぞれ32.9%と23.5%となり、より摂取率が高く、年齢に相対し有意に摂取率も増加した(P<0.001)。またアルコール摂取は低社会経済的地位ならびによりリスクのある性生活、HIV陽性率と有意に相関した(P<0.001)。		
結論： このウガンダ農耕地域では、喫煙率・アルコール摂取率はより男性で高く、低社会経済的地位層でより年齢に相関し増加していた。また、喫煙・アルコール摂取の曝露に関して、経時変化は認めなかった。		